

課題別評価表(3)

取組課題 <p style="text-align: center;">英語科教育</p>	担当名／担当者名 <p style="text-align: center;">英語科教育担当/三好 悠太</p>	評価方法	教職員アンケートを中心とする 教職員による自己評価 (項目により対象者の幅は異なる)
取組の柱 1. 中学校との連続性を考えた指導方法や授業内容の実践研究 2. 日常的に英語や外国の文化にふれることができる環境づくり 3. 地域や保護者にとって分かりやすい情報発信	実態把握 多くの児童が、英語や外国の文化に関心を持ち、意欲的に学習している。授業では、NET(Native English Teacher)の指示をよく聞いて、活動することができる。低学年からアルファベットを書く活動やフォニックスの学習をしている。中学校入学前には、アルファベットの大文字と小文字を書くことができ、中学校でスムーズに英語学習を始めることができる。また、中学校では、英語をしっかりと聞き、ジェスチャーなどを使って表情豊かに会話をするなど、小学校で身につけたことを生かしながら学習に取り組んでいる。 今年度も、小中の接続を考えた授業を行い、一人一人が自信を持って英語を話したり、積極的にコミュニケーションを楽しもうとする態度を育てていきたい。また、ゲストティーチャーを招き、いろいろな国の文化について学習したり、習った英語を使って会話をしたりできる機会をつくるようにしたい。	達成度の判断基準	教職員の評価の平均 A : 3.5以上 4.0以下 B : 3.0以上 3.5未満 C : 2.5以上 3.0未満 D : 2.5未満

評価項目 (具体的な取組)	評価基準	達成度 ※網掛けは昨年度			
		中間	中間	年度末	年度末
1(1)小中の接続を考え、指導方法や授業内容を検討する。	小中合同研修会や授業公開を行い、指導方法や授業内容について話し合うことができた。(教職員アンケートからの評価)	3.7 A	3.7 A	3.9 A	3.7 A
1(2)児童の興味関心を引きつける教具・ゲーム等の開発や工夫をする。	毎時間、児童の興味関心を引きつける教具を使ったり、ゲーム等をして、授業をすることができた。(教職員アンケートからの評価)	3.7 A	3.7 A	3.8 A	3.9 A
2.絵や写真・音楽・文字カード等を用いて学習環境の充実を図る。	学習したことや外国の文化の紹介などを掲示したり、お昼の放送時間等を利用して、日頃から英語にふれる機会をつくることができた。(教職員アンケートからの評価)	3.7 A	3.7 A	3.9 A	3.7 A
3.地域や保護者に対して分かりやすい情報発信を行う。	ホームページや学校掲示板等の手段を使い、英語科授業の様子を発信したり、英語科の参観授業の回数を増やしたりして、地域や保護者に情報発信を行うことができた。(教職員アンケートからの評価)	/	3.5 A	/	3.7 A

達成度については、 A:十分に達成できた B:おおむね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

中間評価		年度末評価		次年度への申し送り
9月末の達成状況	総合評価	12月末の達成状況	総合評価	
5月、8月に小中の英語科担当で、小中学校英語科授業における子どもの様子や指導目標、つきたい力を確認し、話し合った。夏休みの小中合同研修会では、ロベルト講師が「小学校における英語科」について講演を行った。小学校英語の意義や担任とALTの役割などを話したり、授業で使われる様々なゲームに参加したりしながら学ぶことができた。 授業では2年生以上はフォニックスを実施し、アルファベットなど書く活動を通じて英語に慣れ親しむことができた。また子どもの興味関心を引きつけるために、学習したことを生かせるロールプレイやゲームを取り入れた授業を行った。 国際理解委員会の児童は、毎日、お昼の放送当番活動を行ったり、子どもが自分で考えた英語のポスターを作成したりすることで、学習環境の充実を図った。 地域や保護者に対する情報発信に関しては、ホームページや学校掲示板での紹介の他に、6月には参観授業で5年生の英語科授業を保護者に参観していただいた。後期には11月の1年生の公開授業を予定しているので、市内小学校への呼びかけを行うなど、いっそう情報発信に力を入れていきたい。	A	1(1)11月には1年生の英語科公開授業を行い、事後検討会においては小学校における英語科の指導方法や授業内容について話し合うことができた。 1(2)授業においては、高学年ではゲストティーチャーを招き、外国の文化に触れながら、学んだことを楽しく活用できる授業を行うことができた。低学年では導入の工夫をしたり、ワークシートやゲームを取り入れるなど、児童が進んで授業に参加できる授業を行うことができた。 2 国際理解委員会の児童は前期に引き続き、進んでお昼の英語放送に取り組んだ。またゲストティーチャーとの学習から学んだ知識を活かし、様々な外国についてのポスターを制作し掲示することで、多くの児童が英語や外国の特色や文化に触れる機会をつくることができた。 3 情報発信に関しては、ホームページや学校掲示板での紹介の他に、10月の公開デーでは2年生の授業を保護者に参観していただいた。また11月の1年生の英語科公開授業においては、市内小中学校に呼びかけを行い、南が丘小学校の英語科授業の様子を発信することができた。2月の公開デーでは、3年生の公開授業を予定しているので、他学年の保護者にも呼びかけを行うなど、引き続き情報発信に力を入れたい。	A	1(1)年度初めに、年間計画について話し合い、小中合同研修会や授業公開の予定を立てる。 3 学校公開デーで英語の授業を行えるように計画し、ボランティアさんにもお願いしておく。

総合評価については、 A:達成度の過半数がA C:達成度の過半数がCまたはD B:AとCの間